

5月15日(火)、名古屋市教育センターにて講演会及び平成30年度定期総会が行われました。平成29年度事業・決算報告、平成30年度事業計画・予算案等が承認がされました。特別委員会を立ち上げ、事務ハンドブック編集を新しい形で試みることなど、会員からも複数の意見がありましたが、最終的には承認され、会員と今年度の事業について共有を図ることができました。今号では講演会の内容や専門部の紹介を掲載します。

## 会員みんなで力をあわせて！

会長 早川 数幸

権限移譲から1年が経過しましたが、変更となった多くの事務や事務職員制度など、我々を取り巻く状況は、まだ多くの課題を抱えています。このような状況への対応には個々の力では限界があり、今こそ組織の力が重要と考えています。学校事務の課題を解決し、安定した学校運営により、子どもの教育環境の充実へとつなげるために名事研があります。そのための活動を充実させるには、「一部の誰かに負担が集中するのではなく、全員がかかわり、みんなで名古屋の教育をどうするか考える組織」でなければならないと思っています。

昨年度は、事務職員の職務内容が、学校教育法改正により「事務に従事する」から「事務をつかさどる」となったことが、全国の事務職員のなかで大きな話題となりました。

この改正に対応するには、制度変更や他の教職員の理解も必要ですが、事務職員一人一人が意識を変え、レベルアップすることが必要というのが全国の事務職員の考えです。そもそもレベルアップの必要がない職などありません。そういう点からも、名古屋の学校事務職員も、常に変化が求められています。

自分自身のレベルアップ、そして名古屋全体の事務改善につなげるために、いい意味で名事研を利用していただければと思います。



## 平成30年度 名事研活動について

副会長 坪井 宏之



移行期間に入った次期学習指導要領では、子どもたちに、将来の予想困難な社会において、一人一人が未来の創り手となれる力を身に付けさせることを理念の1つに掲げています。そして、その理念を実現するためには、教育課程の改善のみならず、学校の体制整備が不可欠としており、その体制整備の一環として、学校事務職員がより主体的に校務運営に参画できるように、法改正も行われています。このような大きな変革期こそ、新しい学校事務体制を含め、新しい時代の学校をつくるチャンスです。このチャンスを掴むためには、名事研を構成している各区研究会が連携をより深め、課題を共有し、気持ちを一つにすること、また、より多くの会員の積極的な協力のもと、力を合わせる事が不可欠と考えます。

このような状況も踏まえ、定期総会において、「ともにつくろう！新しい時代の学校 ～なごやっ子の輝く未来のために～」が、引き続き名事研のテーマに決まりました。このテーマは、“学校事務”をより広くとらえて、教職員や保護者と「ともに」、子どもたちのために新しい時代の学校をつくらう！という意思を表しており、この思いの体現をめざして名事研は今年度の活動をしていきます。

# 講演「学校事務職員の働き方改革」



名古屋市教育委員会 教職員課長 安藤 稔氏にご講演いただきました。

学校における働き方改革には、教員だけでなく学校事務職員の働き方改革も必要であることや、平成29年度の権限移譲により、学校事務職員の働き方が「事務を任せられる一人職」としてだけではなく、「協働」に参画する一員としての役割も求められるようになったことについてお話がありました。

協働という新たなテーマに取り組むためには、これまでの「働き方」＝「考え方」を変えとともに、教員と学校事務職員が、お互いを理解しあう必要があることを、「校長・教頭・教員から見た学校事務職員」、「学校事務職員から見た校長・教頭・教員」を例とし、説明がありました。

また、学校を良くしていくためには、協働が必要であるが、そのためには職場の全員が一枚岩になることができる良い職場でなければならない。互いに声がかからない職場は良い職場とは言えず、そのような中で嫌な思いををしているのは、協働は、ままならない。現場で気になることがあった場合、教職員課を頼ってほしい。解消するためのサポートをさせていただく、というお話がありました。

それぞれが見方を変え、相互理解することで、協働が可能となり、それによって子どもが生き生きと輝ける学校が作られるとのこと。教員、事務職員共に働き方改革を進めるためには「失敗してもやる気をほめる」、「忙しそうにしていたら期限の確認をする」、「自分が忙しいと思ったら時間の約束をする」の3点を実践してもらい、実践が難しいときには子どもたちの笑顔を思い浮かべて欲しい、とのことでした。

## 専門部紹介

### 事務局 事務局長 山内 健嗣

平成29年度は、権限移譲による新しい制度や事務の対応に追われた1年だったと思います。様々な状況の変化を受け、事務局では研究組織としてのよりよい活動について検討し、各事業を通じて会員の皆様に提案していけるように努めていきたいと考えています。

また、会員、区事務研、そして名事研の橋渡し役として、事務局一同がんばって取り組んでいきたいと考えています。ご協力よろしくお願ひします。

### 研修部 研修部長 森 哲平

研修部では、全体研修会や事務-Gymの企画・運営を通じて、私たち自身を含め、学校事務職員の資質向上の手助けをすることを目標に活動しています。

名古屋の学校には大きな変化が有りましたが、名古屋以外の全国各地で、学校事務職員に関わる物事は大きな変化をしているようです。これらの変化を踏まえつつ、名古屋の学校事務職員にとってよりよい「研修」とは何か、皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

### 研究部 研究部長 小島 啓治

名古屋の学校事務にとって、新しい標準職務の遂行は大きな課題で、誰もが勤務時間の中で遂行できるようになることが理想です。しかし、標準職務遂行の先にある、これからの学校事務職員についても考えないわけにはいかなないと思ひます。

今年度は主体的・積極的に校務運営に参画するためのロードマップを研究していく中で、社会の変容に適応した将来的な学校事務についても、会員の皆様と共に考えていけたらと思ひます。

### 情報部 情報部長 竹田 英祐

名事研って何をしているの？よくわからない…という声を聞くことがあります。私もそうでした。そんな方に名事研のことをもっと知ってもらうために、この名事研ニュースや「じむけん！」の発行、HP更新などをしていきます。

権限移譲を機に、私たちの仕事も変わりつつあります。名古屋だけでなく他都市からも情報収集をして、名古屋の学校事務職員が、よりよい仕事ができる環境、システムとはどのようなものか、考えていきたいと思ひます。会員一人一人の声が大事です。ご協力のほどよろしくお願ひいたします。